



-Fallen Kingdom-
国辱の雌隷

せぶんがー
敗戦国シリーズまとめ本

成人向け
R18
ADULT ONLY
18歳未満
購入・閲覧禁止

Tokkuuki No.01
COMIC MARKET 104

-Fallen Kingdom-

国辱の雌隷

敗戦国のシスター、
ゴブリンと結婚させられる。(22年6月3日)

シスターとゴブリンの新婚生活 (22年8月1日)

敗戦国のシスター、
ゴブリンに仕込まれたドスケベ芸で娼館デビュー (24年1月31日)

囚われの女騎士、
快楽肉人形にされる (22年5月21日)

敗戦国の女騎士、
敵軍に全裸チャンバラで稽古を付けられる (23年6月29日)

敗戦国の女騎士、
和平条約締結を祝し敵国兵に処女を捧げる。(23年12月29日)

敗戦国の姫君、
触手により肛門を開発される (23年9月2日)

敗戦国の姫君、
広場でアナル調教の成果をお披露目される。(23年11月29日)

敗戦国の姫君、
ケツ穴調教が完了し性処理機能付きの家畜となる。(24年2月26日)

国辱の雌隷 (描き下ろし)

エイリスはこの王国で
最も憧れを抱かれています
人物だ。

戦争、飢餓、伝染病—
人々を悩ませる不安を払拭するため
いつも微笑みと祈りを捧げてくれる
麗しき聖女だ。

王国の神官

エイリス

雪のように濁りなく白い肌
絹糸のように美しい髪—
この王国で一番の淑女はと聞かれれば
誰もがエイリスの名を挙げる。
万人に対し慈愛の心を忘れない
清廉潔白な乙女の導きの元、
王国の人々は平和に暮らしていた。

しかし先の戦争により
王国は侵略された。
植民地と化した王国に対して
まず行われたのは
人々の結束力を弱めるための
改宗政策だった。

改宗にあたり
まず目を付けられたのは
人々の心の拠り所になっていた
エイリスだった。
信仰の象徴として
崇められていたエイリスに対し、
侵略国がとったのは
『血統の浄化』政策！

人々の前で
低俗な種族との婚姻を宣言され、
エイリスは信仰を集める淑女から
ゴブリンの苗床として、
身分を訂正された。
そしてエイリスは、
1年以内に妊娠、出産することを
義務づけられた。

当然この政策に
王国民から猛反発があったが、
これはエイリスが
自ら志願したことだと説明がなされると
人々は戸惑いながらも
この政策を受け入れるしかなかった。
愛する王国民の命が掛かっている手前、
エイリスは侵略国の政策を
自ら受け入れるしかなかったのだ。



エイリスの仕事はその日から
『ゴブリンと交尾をし子供を孕むこと』になった。
元々神に仕える身として、
貞操を守ってきたエイリスが初めて見たのは
人間の2倍はあるうかという
ゴブリンの禍々しい男根だった。



自らの身体を求めていきり立つそれを受け入れるため
人間よりも体格の小さいゴブリンに合わせて
健気に体勢を低くし、人生で一度きりの初体験を捧げる
準備をするエイリス。
ゴブリンはその状況を楽しむかのように
挿入までに時間をたっぷりかけた。
その耐えがたい凌辱感に震えるエイリスとは裏腹に、
女性器は挿入を受け入れやすくするために
愛液をたっぷりと分泌させた。



遂にゴブリンはエイリスの秘所に
自らの肉棒をねじりこんだ。
ただでさえ初めて行う生殖行為、
ゴブリンの突起が付いた男性器が
エイリスの肉壺を隅々まで刺激し、
エイリスは処女を散らすと同時に
人生初の絶頂を迎える。

脳内に押し寄せる快樂の波に吞まれる
エイリスに脇目も振らず、
おかまいなしにゴブリンは本能のままに
腰を打ち付け続ける。
初めて味わう雌の快樂。本来であれば
交わってはいけない種族同士の交尾だが、
体内を暴れまわる生殖器によって、
エイリスの体は本能的に自らの「つがい」が
彼であると認識してしまっていた。

エイリスとゴブリンの交尾は
休むことなく続けられた。
精力にあふれるゴブリンにとって、
エイリスの体は格好の遊び道具。
言葉の通じない相手に、
身振り手振りで体勢を指示され、エイリスは
ゴブリンが気持ちよく射精するための体位を
何通りも覚えこまされた。

何とか快楽に押し上げられない様に
男根が当たる場所を逸らそうとしても、
人間の雄と違い、
異種族との交尾をするために
進化してきたゴブリンの生殖器は
エイリスの快感のツボを
決して逃すことはなかった。

本来であればエイリスですら
腕力で圧倒できるような体格のゴブリンに
支配的な体制で自らの恥部を差し出し、犯される。
そして女性として最も屈辱的なのは
自らの望まない相手から注ぎ込まれる子種。
エイリスは、ゴブリンと1日中繋がったままの
生活を送るようになった。



中でもエイリスが耐えがたかったのは、屋外での交尾だった。民衆の前にわざわざ連れ出され、かつて自分を崇拜していた王国民たちの面前で、白屋堂々生殖行為を強要させられた。

自分の主が射精をしやすいように、自らその体を支えて立つよう命じられ自分たちが普段どのような性行為をしているかを、国民に見せつけさせられた。植民地と化したこの国の民たちに、この行為を阻止出来る者は一人もいない。エイリスが出来ることは、せめてこの痴態によって絶頂する姿を見ないでほしいと、見物人達に懇願することだけだった。

おっ
↓

とまって！！
まねが！！
↓

おっ
りゃえ
↓

がっ

っ
↓

がっ

がっ

がっ

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん
ん

みないで
えええ
↓

みないれ
りゃえ
↓

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

結婚から3カ月する頃には、
エイリスはその体に新しい命を授かっていた。
繁殖能力に優れたゴブリンの子供の成熟は
人間よりはるかに早く
種付けされた人間の雌は、
短い期間で何度でも妊娠が可能である。

初めは屈辱を感じていたエイリスも、
妊娠によって幸福感を抱いていた。
雌として、自分に新しい命を授けてくれた
優秀な雄を受け入れ
その伴侶となれたことに生物的な
充足感を得ていたのだった。

エイリスはこの感情を
愛だと勘違いしてしまっていたが
もはやその間違いを正せる人間は
この国には残されていない。
その後、エイリスはゴブリンの良き伴侶として
27人の子供を出産し
それらの子供とゴブリンと共に
貴族としての身分を与えられ、
王国民の血税によって優雅に暮らした。



王国は侵略国との戦いに敗れその支配下に置かれることとなった

王国民の心の支えとなっていた神官エイリスに目を付けた侵略国は、王国民の結束力を弱めるための政策としてエイリスとゴブリンの婚姻を命じ、1年以内に妊娠、出産することを義務付けた

エイリスがゴブリンと結婚した次の日から改宗政策の一環としてこの夫婦による「日課」が行われるようになった

そのあまりにむごく凌辱的な光景に城下町の人々は戸惑いながらも目を離すことが出来なかった

人々の為に祈り全てを優しく受け止めてくれていた王国の女神は結婚の翌日にはその豊富な乳を放り出され最も敏感な突起には隷属を示す大きなリングが通されていた

拘束具によるで前傾姿勢となった上からゴブリンが騎乗し城下町の真ん中で妻となったエイリスの女性器に男根を挿入したまま腰の動きでエイリスに進行方向を指示する

ひと突きされるたびエイリスの女性器は愛液を石畳の道路にまき散らしそのシミが轍となって今までの道のりを示していた白屋堂々も行われるこの忌々しい日課



散歩

エイリスはゴブリンを背中に乗せ繋がつたまま城下町を1周しなければならない

それは占領された王国国民に主従関係を分らせるための象徴的な政策だった

今まで自分たちが信仰心を寄せていた女性が惨めにゴブリンの肉棒を受け入れるしかない姿は分かりやすく人々に絶望感を与えた

散歩にはゴブリンの身をを守るために衛兵が付けられたがこの衛兵もまたかつてエイリスを敬愛した王国民であった

この恥辱を少しでも早く終わらせてやろうと手綱を引いてしまおうと、かえって乳首を刺激しエイリスを身悶えさせる原因になってしまう。目の前で、かつて憧れた王国の象徴である淑女が犯されているのを止めるどころか護衛しなければならぬ状況はエイリスを初めこれら衛兵をも苦しめた





性欲の強いゴブリンが妊娠中に性行為を求めないはずもなくエイリスは自分を妊娠させた主人を悦ばせるための衣装を纏わされた数々の性技を覚えさせられた

最初は口に含めば息が出来なくなっていた肉棒も今では喉奥で受け止める術を身に付けていた理由はどうあれ自分が従属すべきオスに媚びるためエイリスの体は本能的に変化していったのだ



自分のことを妊娠させる能力のある逞しい男根初めは嫌悪感じゃなかったそれが目の前にそびえたっただけで頬は赤らみそれで顔を叩かれれば脳髓から幸福感があふれ全身が震える

ゴブリンはこうして前戯が上手くできたエイリスを褒めてやりエイリスもそうやってゴブリンが喜ぶ性行為の作法を学んでいった

あ♡
ふぁ♡
ほ♡

貴族階級を与えられた
夫婦がすることは
ただセックスのみ

日課を終え、
王国民から搾取されて
建てられた
夫婦の邸宅に帰れば、
今度は二人だけの
愛の儀式が始まる

この日ゴブリンは
エイリスに新しい
性行為の作法を
覚えこませていた

普段は上から
エイリスを凌辱する
だけだったが
この日はいきり立った
男根を見せつけるように
仰向けになり
ヒクつかせて
エイリスに合図をした

んほみ♡

おほみ♡

んほみ♡

んほみ♡

んほみ♡
んほみ♡

んほみ♡

んほみ♡

んほみ♡

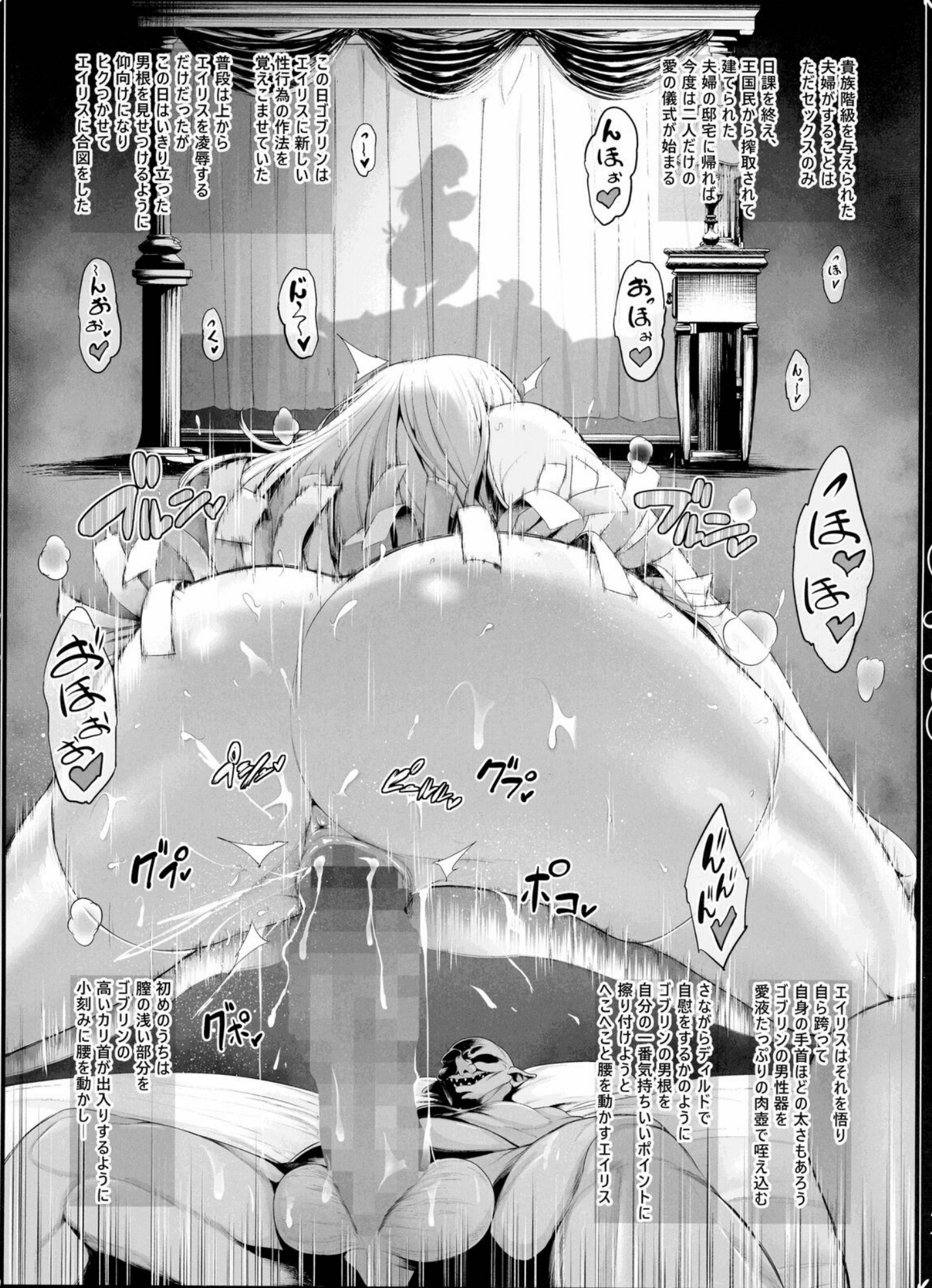
おほみ♡
おほみ♡

んほみ♡
んほみ♡

エイリスはそれを悟り
自ら跨つて
自身の手首ほどの太さもあろう
ゴブリンの男性器を
愛液たっぶりの肉壺で啜え込む

さながらデイルドで
自慰をするかのように
ゴブリンの男根を
自分の一番気持ちいいポイントに
擦り付けようと
へこへこと腰を動かすエイリス

初めのうちは
膣の浅い部分を
ゴブリンの
高いカリ首が出入りするように
小刻みに腰を動かし



腰をしつかりと抑え込まれ
膣内をペニスで満たされる
正常位

騎乗位では無意識に
避けていたポイントも
逃げ場のない
この体勢によって
無防備にさらされ
容赦なく突かれてしまう

ゴブリンのごつごつとした
生殖器がそれらを
隅々まで刺激し
エイリスをさらに深い
絶頂まで押しやる

日中の散歩とは違い
人目を気にしなくて良い
エイリスは
開発されきった
膣や子宮から与えられる
快楽に身を任せ派手に
そして無様に絶頂を
し続けた

ゴブリンは膣奥に
自身の遺伝子を流し込んだが
既に身籠っているエイリスが
妊娠することは無い
当初の改宗政策によって
エイリスに命じられたことは
「妊娠へ出産すること」だった

既に妊娠したエイリスにとって
これらの性行為は無意味なこと
命令、義務の範疇を超えていた
しかし今のエイリスにとって
そんなことはどうでもよかった



膣内から引き摺り出された
三人の体液にまみれた肉棒は
今度はエイリスの
口にねじ込まれる

性行为後の「性器の洗浄」
これもゴブリンによって
教え込まれた性技の1つ

イボや亀頭の裏など
隅々まで舌で舐め直し
尿道に残った
精液の残り汁をすすり出す

先ほどまで自分の膣内を
えぐり回していた男性器への
愛情と感謝を示す作法

口の中を満たす男根への想いで
エイリスは再度絶頂した

唾液まみれになった
肉棒を見つめ
エイリスは下を高速で動かす
これも作法の1つ、
「おねだり」だ

これだけ射精してもまだ
自分を愛せる逞しい男性器で
もう一度交尾をして欲しいと
ゴブリンにせがむエイリス

侵略国に凌辱され
王国民の為にと身を張った
慈悲深き聖女エイリスの姿は
もうどこにも無く

そこには
肉欲を満たすためなら
どんな下品なことでも
してしまうゴブリン専用の
性処理用妻の姿があった

べろべろべろべろ

王国への侵略戦争が終わり、帝国の歓楽街には多くの娼館が建った。

敗戦国である王国の女達は調教がなされ、このような娼館で帝国の男達に「奉仕」する仕事を与えられた。

そんな娼館で、一際人気を博した娼婦がいた。

それが帝国の改宗計画によりゴブリンと結婚をさせられた王国の神官聖女エイリスだ。

植民地の貴族としてゴブリンの夫と子供をこさえる間、労働階級にある帝国男性への奉仕活動の一環として、

エイリスはたびたびこの娼館で男性たちへの「見世物」となっていた。

エイリスを引き連れて来たのは二匹の調教師ゴブリン。帝国によって位が与えられた、他国の女を従順な性奴隷へと教育し、管理する役割を与えられたゴブリンだ。

クリトリスを連結された「手綱」で促され、エイリスは元気に乳房を揺らし、会場の帝国男性に手を振った。

王国の元聖女がゴブリンと結婚し、何匹ものゴブリンを産み、そして帝国の男達を愉ませるためだけの娼婦として、ゴブリンから調教を受け、あられもない姿で、こうして笑顔を振り撒く。帝国男性にとって、この見世物は別格だった。

えへへへへへへ

あ

ハイ

お

ステージ中央に連れて
こられたエイリスは、
自身の性器を
丸出しにしたポーズで
魅をくねらせ始める。

各所に
取り付けられた装飾が、
エイリスの魅を
淫美に飾り立て、
男達をより扇情した。

調教師ゴブリン
によって仕込まれた
『勃起を促す舞』である。
男性達に向け腰をくねらす
エイリスの後ろから

調教師が
『指示棒』で
女性器を
擦り上げる。

拘束具によって
露わになったクリトリスが、
ゴブリンの性器を模した
指示棒の突起で弄ばれ、
エイリスは
情け無い声を上げながら
アクメを晒した。

調教師ゴブリンの
調教が行き届いて
いる証だ。
会場からは
大きな拍手が
送られる。

次に、
調教師が
取り出したのは
鼻フック。

アクメにより
全身を痙攣
させてもなお、
ポールを離さず
姿勢を保持する
エイリス。

うひいひい



半ば強引に
性液を絞り出す、
「御下劣ハキュームフエラ」

指示された通り
大きな音を立てて、
帝国男性の男根に
むしゃぶりつくエイリス。

射精中も
性液の更なる分泌を
促す様にピストン。
そして、
尿道に残った精子を
一滴も残さない様に
吸い上げる。

言う事をきちんと
聞けたエイリスに、
調教師は褒美として
エイリスの子宮口を
撫で回してやった。

エイリスの
絶頂と
帝国男性の
射精が
終わると、



エイリスは調教通り、
男性の排泄した精液を
舌の上で転がし
見せつけた。

これが、
ゴブリンによって
賤けられた、
属国の女としての
作法である。

男性達への
奉仕が終わると、
ゴブリンは

エイリスの眼前に
自身のいきり勃った
肉棒を見せつけた。

エイリスは
目の色を変え、
発情し切った女性器に
それを導く
そう、
この見世物最大の見せ場、
『ゴブリンによる交尾ショー』
である。

皆様あーっ
今からま〜っ
あ

ゴブリン様のお尻を
交尾していただく所を
賢い人達も楽しんで
ください

エイリスは
背中にゴブリンを乗せ、
自らの性器がしっかり
見える様にポーズを取り
観客達に交尾ショーの
開催を告げた。

ゴブリンは
その発声を聞くと
エイリスの性器に
肉棒を押し当て

ほ

ドキ

ドキ

あ

ん

そして一気に奥まで挿入した。

これまでの出し物で発情したエイリスの蜜壺は愛液を満載し、ガチガチでイボつきのゴブリンのちんぽをちゅるんと飲み込んだ。

いよいよ交尾シヨのスタートだ。

会場の期待は大きく膨れ、拍手が沸き起こった。

その拍手に応える様に、ゴ布林はエイリスの弱点を一突き。

堪らず潮を撒き散らすエイリス。調教師ゴブリンのファンサービスに男達は更に大きな拍手と歓声を送った。

王国民の税金に支えられ、日夜ゴ布林との性行為しかしていないエイリス。調教され尽くしたエイリスはゴ布林と人間ではできない様な体位を次々と披露する。

調教師によって仕込まれた体位はどれも、自然な交尾ではなく、シヨの為に如何に卑猥で扇情的かを考えられた、謂わば「魅せるための交尾」だ。

ゴブリンの長い射精中も健気に片足を上げ、自らの女の部分を機される様をしっかりと観客に披露するエイリス。

当然ゴブリンの性行為が一回の射精で終わることもなく

おっ♡

おっ♡

おっ♡おっ♡

んっ♡おっ♡おっ♡おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

ブリッツの
体制を取られ、
口と性器でゴブリツを
愉ませる
「串刺しのポーズ」や、

んぶうう

んぶうう

後ろの席まで
良く見える様に
自ら尻を高々と掲げ、
無防備な二穴で
肉棒を受け止める
「隷属便女ポーズ」

蕩け切った下半身に
容赦なく突き刺さる
2本の凶悪な性器に
なすすべなく豚の様な
声を上げるエイリス。
ゴブリツ達により仕込まれた
卑猥なポーズでの交尾姿を
次々と披露してエイリスは
会場の帝国男性達を満足させた。
ゴブリツ調教師によって
躡けられた女の
交尾シヨは、
侵略戦争に勝利し、
帝国の手に入れた
帝国の男達に
与えられた特権。
帝国でこの様な
見世物が
流行するのも
自然な流れである。

んぶうう
んぶうう

んぶうう
んぶうう
んぶうう
んぶうう



ヨプリンによって
飼育され
植民地である
王国の税金に
生かされている
エイリスは、
誰の子供を孕んでも
問題ではない。

ヨプリンによって
散々弄ばれ、
抵抗できなくなった
エイリスの女性器に

無数の男が性液を流し込む
『公開無作為孕ませショー』も
この娼館ならではのサービス。

帝国の男達はこうして
支配した他国の女を
好きな様に犯し、
慰み者にする。

娼婦エイリスの
見世物ショーは、
エイリスが妊娠しても続き、
帝国の男達の
娯楽の一つとして
大盛況だったと言う。

コキュル

おぎ

ビク

ク

ふ

ビク

ぐ

ビク

王国騎士
カレナ

誇り高き騎士として
3度の戦を制し、王国に
栄光をもたらしたカレナは、
幼き頃から剣の道を志し、
人生を国の平和のために
捧げてきた。

しかし栄枯盛衰とはこの世の常。
カレナ率いる王国騎士団は
敵国に敗れてしまう。
騎士団の全滅は国内に広く伝えられ、
人々に絶望を与えた。
この機を境に、騎士団を率いていた
カレナの情報も不明となった。



カレナは敵国兵に
捕虜として捕らえられていた。
戦地で戦う男の中に女が一人。
敵国兵はカレナを殺さず捕らえ、
自国へと連れ帰った。
身を守っていた鎧や衣服は全て剥がれ、
恥部を隠せないよう拘束された。

普段なら一蹴できるような男に
胸や尻を弄ばれ辱めを受けながら
地下牢へと連行されるカレナ。
鎧で隠してきた肉体を晒され、
否が応にも今まで無視してきた
女としての自覚と羞恥心を
掻き立てられた。
地下牢最深部に到着したカレナには、
さらに耐え難い凌辱が待ち構えていた。

豊満に育った肉体を縛り上げられ、
男達のちよと目の高さに
恥部が来るように吊るされる。
騎士として生まれ育ったカレナにとって
雌として男達に好奇の目で見られるのは
初めての体験だった。

視界を奪われ、不安定な体制で
局部を晒される耐えがたい恥辱に
全身が火照るカレナ。
その光景をひとしきり楽しんだ
男達は次に、小瓶に詰められた液体を
手に取った。

ド
イ...

その国に古くから伝わる媚薬。
肌塗りにすればたちまち
神経は研ぎ澄まされ、
わずかな刺激でも身悶えるほどの
快楽へと変える劇薬。
男を知らないカレナの身体に、
男達は丁寧に塗るようにつ
この媚薬を塗り込んでいった。

乳首や性器などの性感帯には
念入りに、何度も何度も
媚薬が塗り込まれた。
両の突起を弄ばれる度にカレナは
意図せず甘い声を上げてしまう。
それが不覚にも、男達をより一層
楽しませてしまう原因になった。

一生を剣の道に捧げてきた
カレナには、生まれて初めて味わう
この感覚への対処法は無かった。
男達の思うままに体を弄られ、
そのたびにただただ身悶えし、
情けなく鳴くことしか出来ない。

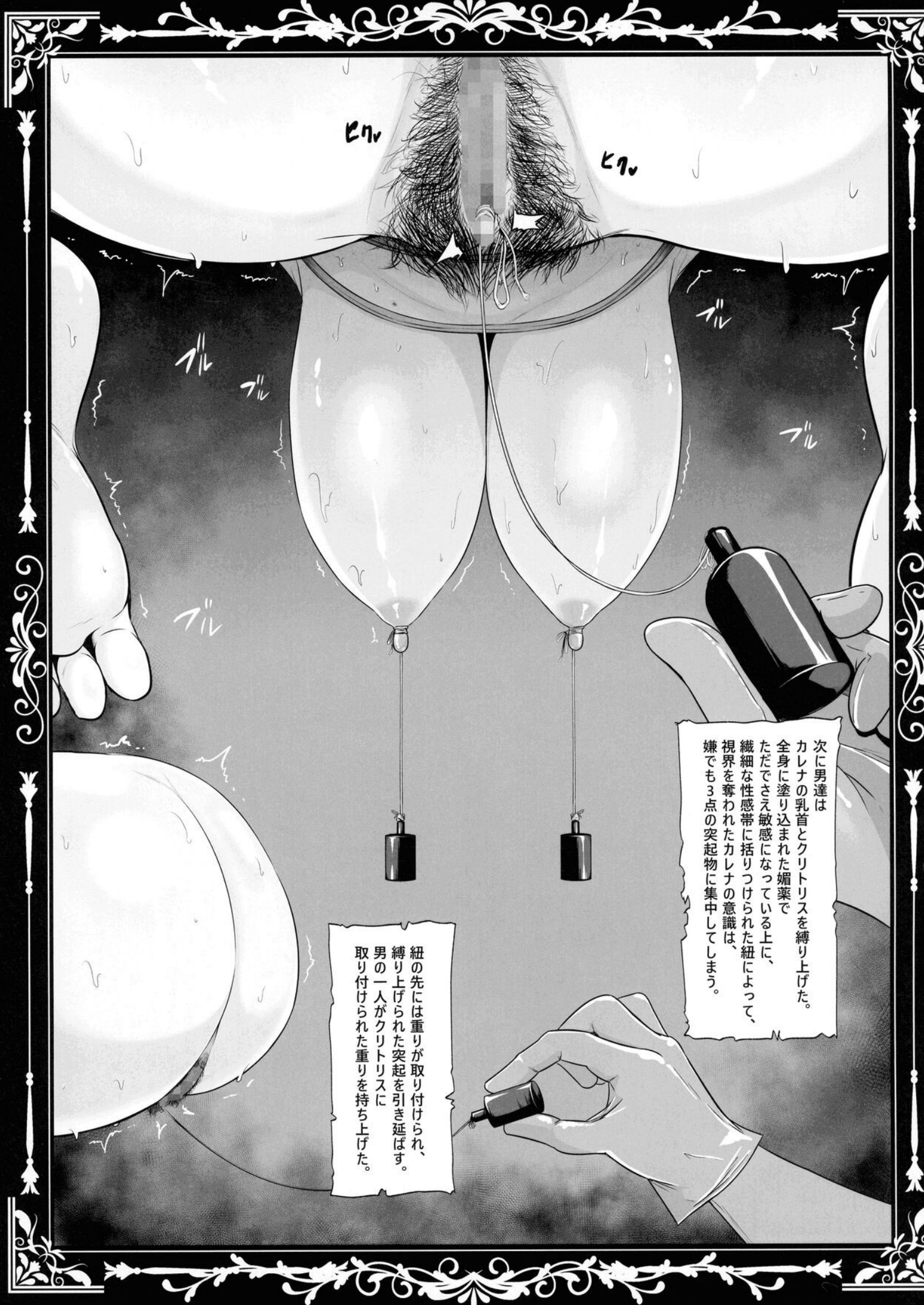


特に女性器には念入りに、
そして丁寧に媚薬が塗り込まれた。
クリトリスはつまんだり、転がすように、
カレナの反応を楽しみながら。
処女膜は傷つけない様に粘膜を広げられ、
ひだの裏まで指先でじっくりと
なぞるように塗り込まれた。

ん


ぽあ

未だかつて
自分でも触ったことが
無いような場所まで弄られ、
見ず知らずの男に委ねるしかない
情けない体勢のカレナ。
男のその丁寧に手つきがまた、
カレナの心を追い込んだ。



次に男達は
カレナの乳首とクリトリスを縛り上げた。
全身に塗り込まれた媚薬で
ただでさえ敏感になっている上に、
繊細な性感帯に括りつけられた紐によって、
視界を奪われたカレナの意識は、
嫌でも3点の突起物に集中してしまう。


紐の先には重りが取り付けられ、
縛り上げられた突起を引き延ばす。
男の一人がクリトリスに
取り付けられた重りを持ち上げた。



男が重りを手放し
振り子のように振動させ始めた。
その強烈な刺激により、カレナは
人生で初めての絶頂を迎えた。
敵の男達の目の前で
みっともない姿を晒すまいと気張るが、
雌として作られた
自身の身体から与えられる快樂に
抗う余地はなかった。

敏感になったクリトリスへ、
無慈悲に刺激が与えられ続ける。
全体重を天井から吊るされた
ロープに頼るしかないカレナが
身をよじる度、
全身が振り子のように振動し、
さらにその振動で取り付けられた
重りが振動を始めてしまう。

振動を始めた重りが
また乳首とクリトリスを刺激し、
カレナは2度目の絶頂を迎える。
絶頂を迎えたカレナの体は大きく震え、
また重りに振動を与えてしまう。
一度始まった絶頂が次の絶頂を招いてしまう
無限の悪循環にカレナは囚われてしまった。



薄暗い地下牢の隅で
嬌声を上げ続けるカレナ。
もはや騎士としての誇り高き姿はなく、
天井からぶら下げられた
快樂肉人形と化していた。
男達の気が済むまで、
カレナは自らの力ではこの状態を
抜け出すことは決して出来ない。
気を失えばまた重りを揺らされ、
終わりのない絶頂の渦の中へ
強制的に引き戻される。

女として最も隠したい部分を
さらけ出したまま、
カレナはこの後三日三晩
この責め苦を受け続けた。
しかしこれはまだ、
このあとカレナが受ける恥辱の
ほんの一部に過ぎなかった。

地下室での
調教を終えたカレナには、
帝国軍兵舎の中庭で、
新たな調教が
待っていた。

『帝国兵など
両の手を使わずとも勝てる』
と豪語していたカレナの話
耳にした彼らは、
カレナが捕虜となった今、
それを示して貰おうと
彼女を拘束し裸で外に出させた。

たっぷりと媚薬で調教され、
風が当たるだけでも身悶えるほど
敏感になった3つの突起には
紐を括りつけられ、
その先に模擬刀をぶら下げられた。

今すぐにも逃げ出したい
カレナだったが、
その場には生き残った
王国騎士団の団員が居た。
敵国の兵士に囲まれた環境で、
カレナは騎士団の長として
この恥辱を受け入れるしかなかった。

括りつけられた模擬刀で試合を行い、
相手の身体はどこかに
触れられれば勝ちとなるが
この体勢と条件：
この後カレナに待ち受けるのは、
凌辱ショーであるということ
誰の目にも明らかだった。



次の瞬間、
身じろぐカレナの模擬刀目指して
激しい衝撃が走る。
男の腕で振り下ろされた剣撃は、
一撃でカレナを絶頂させるのには
十分だった。
あまりの刺激に、腰を折り曲げ
少しでも部下たちに情けない所を
見せまいと絶頂を抑え込もう
とするカレナだったが、帝国兵は
それを許さなかった。

腰を逃がさないように
後ろから抑えられ、
敏感に育て上げられた
クリトリスと乳首が
模擬刀ごしに激しく
揺さぶられる。

身を震わせ泣き叫び敗北を認めても、
兵士は手を緩めなかった。
子供をあやすように声を掛け、
あざ笑いながら
剣撃を加え続ける帝国兵。
そのたびにカレナの身体は
激しく痙攣し、本人の意思に反し
性的快楽を生み出してしまふ。





情けなく野太い声を上げ、カレナは潮を吹いて絶頂した。ひと際深く長い絶頂！騎士として、女として、敗北し醜態を晒す。今まで人目に付かない所で行われていた調教と違い、屋外での恥辱と絶頂は、カレナの心に『敗北』という2文字を強く刻み付けた。



その後
試合に負けたカレナは、
兵舎から連れ出され
新たな凌辱を
受けることとなる。

女性器を男たちの目の前に
高く晒し上げられたまま、
潮を吹いて絶頂、
体中を震わせて、
狂ったように股間から
愛液をそこら中にまき散らす
カレナのその姿は、
帝国から受けた調教の
徹底さを物語っていた。

3度の戦を制し、王国に
繁栄と栄光をもたらした
誇り高き軍神は、
こうして帝国によって
剣士としても、女としても
蹂躪され、
一匹の下劣なマゾ雌に
作り替えられてしまった。

カレナはそのまま
暫くの間
街の中心部で
股間に鞭を受けながら
まるで噴水のように
無様に潮を吹き続けた。

公開調教が終わると、カレナは恥部を晒した体勢でその場に放置された。少しでも動けばクリトリスと乳首が互いに引っ張り合うように細工をされ、絶頂すれば性器と共に肛門が痙攣し自動的に白旗を振る仕組みだ。無理な体制が続き体の力を緩めると、火照った乳首が締め上げられ絶頂。体勢を立て直すために腰を持ち上げようとすれば今度はクリトリスが引っ張り張られ絶頂。



人々が往来する大通りの道端で、無様な姿勢のまま、ただただ終わることのない甘イキを続け、白旗を肛門で振り続けるカレナ。かつて騎士団を率い、最後まで戦い抜いた女騎士は、帝国の勝利を象徴するオブジェとして、暫くの間道行く人々を愉しませたとする。

王国の敗戦から1年が経とうとしていた頃、帝国の広場では、とある式典が執り行われることとなった。

調教の限りを尽くされ、蕩け切った乳首とクリトリスで手綱を引かれ、連れて来られたカレナ。

裸よりも恥ずかしい女性の恥部が丸出しになった衣服。これが戦争で敗北した被支配国民の女の「正装」なのである。

連れてこられたのは、帝国と王国の和平条約締結記念式典会場。

待ち受けていたのは敵国兵の中でも、一際屈強な大男だった。

その後ろには、かつて戦場を共に戦い抜いた部下たち。式典への出席のため小奇麗な服を纏わされていた。着ているの服の差が、カレナの羞恥心、そして王国の男たちの自尊心を蝕む。

これから行われる式典の内容を悟ったカレナだが、待ち受けるその侮辱を拒むことなく、出来るはずがなかった。

お立ち台に上げられたカレナはまず、集まった民衆に向かって宣誓文を読まされた。

あんなに羞恥心がある場合、いかにして我慢するべきか...

あんなに羞恥心がある場合、いかにして我慢するべきか...



和平の鐘

帝国に
忠誠を誓った国の
代表者に与えられる、
友好の証。



性快楽と羞恥で
赤く腫れ上がる
突起物を卑しく
飾り立てる装飾品は、
少しの振動で
チリチリと鳴り、
淫猥な三点を
刺激し続ける。



帝国によって卑しく
育て上げられた
3つの突起に、
それぞれひとつづつ、
それが取り付けられた。

大きなペニスを
突き立てられた
女性器と、クリトリス、
乳首をヒクつかせながらも、
これ以上
帝国の男共を
悦ばせまいと
耐えるカレナ。

しかし、身震いする度に
鐘が小さく鳴り、
耐えるカレナを
更に絶頂へと
追い立てる。



自分の体を
軽々と持ち上げる
男の勇ましさに
不意を取られたのも
束の間



和平の鐘の
授与が終わると、
男はそのまま
カレナを抱き上げた。

結合部を民衆に見せつけるように、抱き抱えられたままのピストン。

男性器は子宮を突き上げ、膣壁を抉り、

そして取り付けられた鐘が鳴り響く。鳴り響いた鐘が乳首とクリトリスを乱暴に振り回し、

カレナはその無様な姿を隠すことも許されないまま壇上で派手に絶頂した。

絶頂が終わらぬうちに、突き上げられる男性器で絶頂

ツツが

そして徹底的に調教されてきた乳首とクリトリスを鐘が刺激してまた絶頂

野太い声を上げながら、派手に絶頂を続けるカレナを





属国の女に、
当然避妊など
許されない。
男は容赦なく、
カレナの膣内に
大量に射精した。

カレナにとって、
生まれて初めて
受け入れる
精液。
それは、
騎士として、
王国民として、
そして女としての
敗北の証。

たつぷりと
中出しをされた
カレナの女性器が
広場の国民達に
よく見えるように
男はカレナの身体を
持ち上げる。

名前も知らない男の
子種を一杯に受け取り、
卑しく収縮を繰り返す
カレナの肉壁は、
侵略に成功した帝国側と、
王國側の体制を
分かりやすく
物語っていた。

持ち上げられたまま
恥ずべき場所を
隠すこともできない
カレナは、

挿入された
男根の余韻と、
胎内から溢れ出る
精液の温かみを
感じながら、
静かな絶頂を
繰り返した。

その後も、
広場での式典は
夜通し続いた
という。

殺到した男共に
男根を振り込まれ、弄ばれ
カレナは何度も何度も
絶頂を繰り返した。
玩具のように
いたぶられ
お構いなしに
中出しを繰り返された。

最初は僅かな抵抗を
見せていたカレナも、
式典が終わる頃には
すっかり従順に
なっていた。
女として、
敗戦国の人間として
支配されるものの立場を
その身を持って
解らされたカレナは、

浅ましく絶頂を
繰り返した挙句
男たちに
命令されるたびに、
下品に乳と尻を
自ら振り回して
鐘を鳴らして
絶頂した。

敗戦国の女に
誇りや品格は
必要無い。

ただただ
主人に従い、
卑しく媚び、
慰み者になり、
慈悲を請い、
男性器を
受け入れる。

誇り高き
騎士カレナは、
数々の調教を終え、
そんな属国の女の
代表に相応しい姿へと
作り変えられたのだった。

ぽんぽん

ほおほ

へっへっ

ほ

ほ

ほ

へっへ

へっへ

へっへ

へっへ

へっへ

へっへ

へっへ

へっへ

へっへ

へっへ

へっへ

シエリーツ王女

帝国の進攻開始から数カ月、
王国は疲弊し、
城を明け渡す形での敗戦となった。
城に住んでいた王家の人間は、
次々と帝国兵の手に掛けられていったが、
王族の中でもひときわうら若く、
容姿の整ったシエリーツは目を付けられ、
侵略国の長、皇帝の前に連れ出された。

敗戦国の王族であり、
王女であるシエリーツに対し、
皇帝は、命を奪わない代わりに
シエリーツを
妾として迎え入れる
つもりがあると話した。

シエリーツは
その申し入れを断った。
生まれた時から王家の
人間としての気品を
体得してきたシエリーツに
あまりに侮辱的であり、
そのような辱めを
受けるのであれば、
王族として誇り高き
最期を迎えるという覚悟が
シエリーツにはあったのだ。

しかし、その返事を聞いた
皇帝の反応は意外なものだった。
この状況でも自分の申し入れを
断るシエリーツの度胸を気に入る、
シエリーツの意見が変わるまで
待つことにしたのだ。

シエリーツは帝国兵により
城の地下牢に閉じ込められ、
意見が変わるまで
そこで過ごすようにと
命じられた。

シエリーツ

くっ……

くっ……

全裸の状態、股間には魔術を込めた紙切れが1枚、薄ら笑いを浮かべながら紙め回すように身体中を見回す帝国兵に対し、シエリーンはただ赤面することしか出来なかった。

そして次の瞬間、身体を自由を奪われたシエリーンの身体に冷やかで不快な粘性の物体が絡みつく。

この地下牢には、帝国によって品種改良された触手が放たれたのだ。

触手はシエリーンのその柔らかく豊満な肉体をはい回ると、魔術を込められた紙を避け、肛門へと侵入しようとした。

シエリーンは戸惑いながらも必死に足を閉じ、触手の侵入を阻もうとするが、全体を粘膜で覆われた触手には何の効果もなく、尻肉をかき分けて肛門に到達されてしまう。





勢いよく肛門に挿入された触手に
思わず驚き甘い声を
漏らしてしまうシェリン
感じたことのない異物感と
ジンジンと暖かい感覚に
肛門は本人の意思に反して
ヒクヒクと反応してしまう。

本来であれば
痛みを伴う肛門への挿入だが、
触手の身体から分泌される
粘液には、沈痛、そして
強力な媚薬の成分が
含まれている。

必死に抵抗を試みる
シェリンだが
抵抗しようとするほど
肛門に力が入り
触手を締め上げ、
より刺激を受けてしまう。
さらに肛門を触手が
往復するたびに
媚薬効果のある
粘液が塗り込まれて行き、
あっという間に
シェリンの肛門は
快樂を生み出す
卑しい穴に成り下がって
しまった。

その感覚に戸惑い
今度は足を閉じようと
力むシェリンだったが、
数多の触手に四肢を
絡めとられ、肛門への
刺激が阻害出来ないように
足を大きく開かれ
固定されてしまう。

やあ、こ

あ、こ

こ、こ

こ、こ

こ、こ

か、か

拘束された
シエリーツの肛門は、
日に日に変化していく
その触手の侵入を
拒むことを赦されなかった。
ある時は不安定な体制で
肛門を曝け出され、
段差のついた触手を
時間をかけてねじ込まれた後
突然二気に引き抜かれたり。

またある時は
無数の細長い触手に
肛門を方々から
引っ張られたり、
優しくくすぐるように
肛門の淵や直腸を
愛撫されたり。

挿入された触手を
内部でパンパンに
膨らまされた後

おおほおほ

おお

ひゅあ

おほおほ



力づくで思いっきり
引っこ抜かれたり。

寝る間も与えられず
続けられる凌辱—
触手を受け入れる
ことよって
シエリーンの肛門は
みるみる敏感に、
柔軟になっていった。
そしてそのシエリーンの
身体の変化に合わせて
触手もまた次々と
新しい形の触手を
増やしていった。

1週間も経てば、
触手もシエリーンの肛門も
今までは見違えるような
形になっていた。

シエリーンの肛門は
快楽を誘いこまんどばかりに
なまめかしく常にその口を
ぱくぱくと動かし、
そしてその周囲をうごめく
触手も、肛門に刺激を与え、
シエリーンを絶頂へと
導くための
工夫を凝らした
形状となっていた。

あまりにも禍々しい
その形状は、
シエリーンの肛門が
悦ぶ刺激を学習した
触手による最適解—
つまりこの形は、
シエリーンの身体が
無意識で望んだものだった。



長い長い絶頂を終え、
また新たな触手を
啜り込もうと
抜き取られた触手を
恋じろくに
ひくひくと収縮を
繰り返すシエリーンの肛門

強制的に絶頂に
押し上げられたシエリンは
かすかに残る意識の中で
皇帝への許しを請うたが、
眼前には、
より凶悪な形状をした
触手が肛門をめがけて
迫っていた。

シエリーンの
この責め苦は休むことなく、
1カ月もの間続いたと言う。

おはよう

おはよう



ぽっかりと口を開いた
肛門を見せつけるように
腰を前に目一杯突き出し、
集まった民衆に手を振りながら
挨拶をさせられるシェリン。

お集まりいただき
ありがとうございます
お集まりいただき
ありがとうございます

これからあ
ツツ穴い
ほつちんが
まじまじ

高貴な王族の娘の口から
発せられる下品な言葉や
自ら恥部を曝け出し、
帝国兵の前で作り笑いを浮かべる
その情けない姿は、
今まで忠誠を誓ってきた君主の失墜を
王国民に思い知らせるには十分過ぎた。

民衆への挨拶が済むと、
シェリンの股下に
大きな箱が運ばれてくる。

帝国兵が箱を開けると、
ぬらぬらと光る粘膜に覆われた
大きな触手が、
ゆっくりと這い出して来た。

その禍々しい姿に民衆はどよめいた。
その触手はこの日のために
特別に飼育、改良された品種。
太ましい体躯を持ち上げ、
すぐにシェリンの肛門を探し始める。

地下牢と違い、衆人環視
しかも自国の民に
見られているこの状況、
シェリンは触手の侵入を阻もうと、
必死に拘束台の上で腰を振るが、
その姿はあまりに滑稽で
帝国兵の嘲笑を誘うだけだった。



絶頂の波が引かないまま、
触手はシエリンの肛門に
勢いよく産卵を始めた。

他の品種と違い、
肛門内に無精卵を産みつけるよう
品種改良されたこの触手は
直腸内の環境に合わせ、
適した大きさの卵を産みつける。

無慈悲に体内に
産みつけられていく卵
今まで感じたことのない
感覚でさえ、
性快楽へと変換してしまう
直腸に戸惑いながら、
シエリンの腹部は
みるみる膨れて行った。

十分に卵を産みつけ満足した触手は
肛門からその体躯を引き抜く。
異物を引き抜かれる際の快楽で
絶頂してしまわぬ様瀬戸際で耐える
シエリン。

敏感になった肛門に、
産み付けられた卵が下りてきてしまう。
これ以上絶頂しまいと、
卵を直腸内にとどめようとするが、

拡張され切った肛門は、
卵のツルツルした表面を
締め上げて押し戻すことはできず
少しずつ溢れ出して来てしまう。

それでも必死に
これ以上の恥辱は
重ねまいと、

肛門に力を込めようと
足掻くシエリンだったが、



民衆に聞こえる様に、
施しを受けた感謝の言葉と、
折角産みつけてもらった卵を
無駄にってしまったことへの
謝罪をするシェリオン。

せえ〜んが〜ん
出っ…た…んが…ん
ニシ…ン…ン
ナ…ン…ン

も一回…
お願い…

そして
浅ましく施しをおかりするよう
命じられたシェリオンは
もはや従順にその命令を
聴き入れるしかなかった。

シェリオンからの
懇願を受ける
という形で

触手による
卵の産みつけは
何度も行われた

しかし何度行おうと、
シェリオンの緩み切った肛門は、
卵を勢いよく吹き出して
しまうだけだった。

お…お…お…
お…お…お…

帝国兵はその姿を面白がって、
出来るだけ前へ飛ばせと命令した。
快樂で脳まで蹂躪されたシェリオンは、
ただただその命令を遂行し、
民衆をさらに落胆させた。

何度産みつけても
体内から出て来てしまう卵。
それを学習した触手は、
その直腸の環境に合わせて
産みつける卵を
変化させていった。





次々と出てこようとする卵を、押し戻すために息んで、ひり出して絶頂し、そしてまた触手が卵を産みつける。

広場の奥では、かつてシエリオンを妃として迎え入れようと申し出たがシエリオン本人によって拒絶された皇帝がその様子を見ていた。

ぐうぐうふおお



あの時あの提案を受けていけば

そんな後悔すらする暇もなくシエリオンはこの広場のど真ん中で絶頂を晒し続けた。

敗戦国の女に選択肢はない。隷属か、陵辱。待ち受けているのはただ、その二つの運命。



この先もそれは変わることはない。



終戦による
混乱が終わり、
帝国と王国には
和平条約が
締結された。

国交は整備され、
王国は帝国の
支配を受けながら、
王室の解体や
改宗政策により、
かつての王国民
としての誇りを
少しづつ
忘れていっていた。

そんな王国と
帝国の間を、
一台の馬車が
往來していた。

それは、
帝国皇帝が
王国の支配占領から
帰還する馬車
もとい、
人力車だった。

なぜなら
皇帝が鎮座する
荷車を引いているのは、
馬ではなく

かつて王国に君臨し、
人々を守ってきた王族の姫君、
シェリンだったからだ。

あられもない姿で
拘束され、
口や乳首には
拘束具を付けられ、

その細い体で懸命に
荷車を引かされる姿は、
誰の目からも分かりやすく、
王国の敗北と、
支配の完了を表していた。

シェリンは
この屈辱的な醜態を
帝国の者たちに
見られまいと
少しでも早く荷車を
引こうとするが

王家で育った
華奢な肉体に、
乳首と性器に
取り付けられた
拘束具のせいであまり
力が入らず、

この恥辱を長く
晒すこと
なってしまう。

人力車出発の前日、
シェリンは
皇帝に懇願していた。

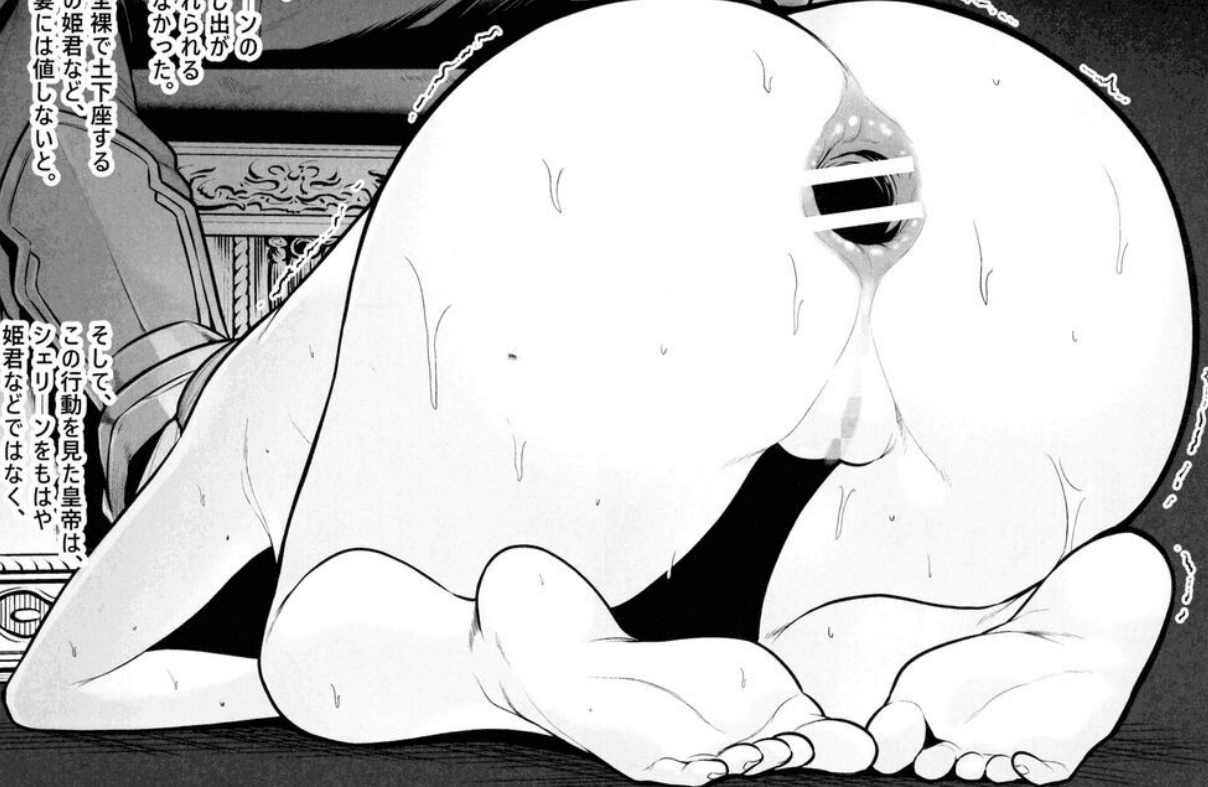
かつて、自分を「妻として迎え入れる」と慈悲深い言葉をくれた皇帝の思いを踏みにじり、その申し出を断ってしまった事への謝罪と――

度重なる屈辱的な調教を辞めてほしいこと、調教に屈し、皇帝の妻として、その身を差し出すことを皇帝に申し出たのだ。

しかし、シェリンのその申し出が受け入れられることはなかった。

申し全裸で土下座する元王族の姫君など、自身の妻には値しないと。

そして、この行動を見た皇帝は、シェリンをもはや姫君などではなく、自身の「家畜」として扱うことを決めたのだった。



帝国の広場に、シェリンに引かせていた荷車を止めると、皇帝はシェリンに尻を突き出すよう指示した。

隷属を示す装飾品を、尻穴から抜き取ると、

反射的に、性行為を期待し、艶めかしく口をヒクつかせる。アナルが顔を出した。





開発され切った尻穴は、
もはや外の空気に
晒されるだけでも
性快楽を
生み出せてしまう。
そこに
差し出されたのは、
皇帝の男根だった。

初めて見る男性器に
戸惑う時間もないまま、
皇帝は家畜である
シェリーンに、
その肉棒を尻穴で
啜え込むよう指示する。

生まれて初めて
受け入れる
男根
しかも
衆人環視の中
言葉すら発することを
赦されず、

屈辱的な状況
にも拘わらず、
シェリーンは
皇帝の上で
よがっていた。
散々開発された尻穴は、
こんな状況でも
性快楽を貪り、
収縮を繰り返す。

上の口からも
下の口からも
精液を垂れ流し
力なく民衆に
晒されるシエリン。
もはや王族としての
高貴さを見る影もなく
性処理専用の家畜と
成り下がったその姿は、
集まった帝国の男達の
欲情を煽った。

期待が高まる
民衆に対し、
皇帝は広場の中央に
拘束台を用意させた。

先ほど皇帝により
初めて尻穴への
挿入をされたばかりの
シエリンは、
何も知らされないまま
その場で拘束台へと繋かれ
放置された。

どんなに喚こうと
この国に敵国の姫君を
救い出すような
人間は居ない。
目の前に雌穴を
晒すように拘束された
美しい美女目掛けて、
広場の男達は次々と
集まって来たのだった。



一体どれくらい
の男達を相手にしてきたか
既にシエリンも
分かっていなかった。
ぼっかりと
空いた尻穴、口は当然
気が付けば
今まで守っていた
処女すら失っていた。

生まれながらに
高貴な身分として
王家に君臨してきた
シエリンも、
こうして帝国民の
男達の前に晒されれば
性処理をするための
穴に変わりにない。

処女のまま、
尻穴側から丁寧に、
そして
強制的に自覚無く
開発されていた
シエリンの子宮は、
シエリンに
脳まで浸る
快楽を与えた。

使い放題の穴に
ありついた男たちは、
欲望の赴くままに
肉棒を突き立て
順々に鬱憤を
晴らしていった。

初めて女性器で
受け入れる
見ず知らずの男の
男根に対しても
敏感に反応し、
最愛の人との
性交時の様に
愛液をまき散らす。

街中の男たちの
精液を全身で受け止め
拘束台の上で
シエリーンは
その小さな身を
震わせていた。

たった二日で
優に百人以上の
男達の肉棒を
三穴で受け止め
穴という穴から
精液を垂れ流しながら
未だ取まらない強烈な
アクメの余韻に浸る
シエリーン。

ドロボロ

これが、
勝者と敗者。
征服と支配。

最初から素直に
皇帝からの申し出を
受けていれば、
こんなことには
なっていなかった
かもしれない。
そんな後悔も、
もはや家畜と成った
シエリーンには
意味のないこと。

王族の娘として
生まれたシエリーンには、
この先、
男たちの性欲を処理し、
晒し者にされる、
帝国の共用家畜としての
人生が待っている。

広場の中央に
シエリーンは、
しばらくの間放置され、
男たちの便利な
性処理肉便器として
機能していたという。

おア

アアア

帝国側の凌辱は留まることを知らなかった。改宗政策や和平条約の締結を皮切りに、植民地と化した王国内部はマラなる混沌と退廃に苛まれた。

帝国は王国民の反乱を抑止するため、かつての王国民達の心の支えであった8人の女を帝国都市部に住まわせ、帝国民の慰み者にする事で、王国民の戦意を削ぎ、その立場を確固たるものにしていった。

戦争終結から数年、女達は今でも、敗戦国の十字架を背負い続けている。

おらっ!!
キビキビ歩けっ

皆様
お待ちかねだぞ



街を一周
練り歩いたら
ご奉仕開始
だからな

しっかり
宣伝して回れよ

この街の皆様には…

グ
グ
グ



帝国軍
おちんぼ
親善隊が
来ました〜

ってなw

うわw
なんだ
あいつらw

見ものだなw
敗戦国の
奴らだw

元王国民の女を
こうして国で
飼ってるんだとよ

責任を体で
払わせる為になw

みっ：
皆様あ♡

お集まり頂きい
ありがとうございます♡
ご返しますうっ♡

帝国軍所属う：♡
帝国おちんぽ親善隊
隊長カレナとお♡

同、
エイリス♡

シエリーン
ですう…

本日はこの街にい：
名誉帝国女性として
帝国男性様のおちんぽ
接待に参りましたあ♡

今日一日
ご満足いただけるまで
私達の身体で：え♡
御遊び下さいませっ♡

くははw
なんちゅゝ
恰好w

人間としても
女としても
終わってんなw

まあおちんぽ用に
生かして貰えてるだけ
アイツらにとっては
マシかw

帝国おちんぼ親善隊
隊長カレナあ♥

元王国騎士団
の団長としてえ：
帝国国民の皆様♥

誠心誠意の謝罪とお♥
敗北宣言をお：
ここでさせて
いただきますう

ほおw
乳首とクリに
白旗かw

カレナ

しっかり
謝罪しろよ？w
こっちはためえらの
国に迷惑かけられたん
だからよ

全身使って
勝者に媚びろよ？
ザユザユ騎士団
団長さんw

ううう：
ハイい♥
♥



ザコザコ騎士団団長のあ
媚び媚び白旗ダンスを
ご覧にいれましょ♡♡

我が国がつ…ご迷惑を
おかけいたしましたあ♡♡
お許しください♡♡♡

ブハハww
乳放りだして
がに股謝罪とかw

まあ誠意は
伝わってきたわw

ただなあ…

マン汁
垂らしてたら

謝罪になんね
じゃねえか…



よっ!!!

ブハハW
元騎士団団長が
みっともねえW

まあ無理も
ねえか

女の弱点
全部開発済
だもんなW

あはははは
あはははは

あ?
何言ってるんだよ

グッ
グッ
グッ

負けた奴に
拒否権はねえだろっ!!



グハハハWWW
いいぞいいぞW
俺らの気が済むまで
イキ散らかせやW

グッ

調子に乗って帝国様に
喧嘩売ったのが
悪いんだろぅが
この雑魚がっ!!!

負けたからには
徹底的に責任
取らせるからな?

理解かったのか?
あ? 雑魚w

ざっ
雑魚が調子乗って
しゅみましえん
でしたあ:♥♥

媚び媚びだんしゅ
がんぼるのれえ:
くりい:叩か
ないれえ:
っ:っおお♥

よーしい子だw
もういっぺん
イカずに旗振り
して見せるw





お姫様っW

スッパッパッ

ぽろぽろ

がはははははW
クリトリス弾くと
絶対ケツ緩むわ
こいつW W W



はいざんねん♪
次はもつとデカいの
ぶちこみま〜すW

残念だったねW
シェリン
ちゃん♡

今度は浣腸液も
たっぷり
入れるからね♡

カラン

ぽろぽろ

ぽろぽろ

ぽろ

ぽろ

ほくらお姫様 W
今度は上手に
ひりだせるかな？

もう出て
こないじゃね W
相当デカいの
ぶち込んだから W

ひり出したら
浣腸液の人間噴水が
お披露目になる
だけだな W

頑張れ W
頑張れ W

おとと
ストップ
ストップ W

おはようおはよう
おはようおはよう
おはようおはよう

おはようおはよう
おはようおはよう
おはようおはよう

ポ
ポ
ポ

おはようおはよう
おはようおはよう
おはようおはよう

おはようおはよう
おはようおはよう
おはようおはよう



王室でちゃんと
馴けて貰えな
かったのかあ? w
出来るの?

ひり出すときは
ちゃんとご挨拶
でしょ? w

お!!

お!!

お!!



よろしじやあ
イケっ!!!

お!!

ブハハハ w w
勢いやバ w

今度は2個
入れるか w

上手に出来て
偉かったね w

帝国男性の皆様あ
本日はお集まり
いただき
誠にありがとうございます
ございませう

皆様あ
お手元の指示棒で
エイリスに
アクメのお恵みを
下さああい

へへへw
こっちのシスターは
ずいぶん従順だなw

帝国の皆様にい
女の一番の幸せは
おちんぽを恵んで
いただく事だと
教えていただき
ましたあ

じゃあ
そのチンポを
恵んで貰うには
どうするんだ？w

エへへ
こうやって
がに股でえ
おっぱいと
おまんこ丸出しにして
媚び媚びしますう



合格だ!!

あううう♡
おちんぽきたあ♡

あうう♡
もうちよっと
奥うう♡

そこそこお♡
もつ♡
ゴシゴシ♡

お望みの恵みの
アクメだぞw

すっかり
ケツ上げて
感謝して
イケよ?w



あううう♡
ぐっ♡
ぐっ♡



サキバシ

帝国へおめでとう

おめでとう

ぶはは W W
母乳まで吹いて
やがる W

よかったなあ
お前みたいな
色ボケ女



ちんぽ係として
飼って貰えて W

よしし今度は
二本いくぞ W

おめでとう

おめでとう

おめでとう



オラあ!!!
しっかり
まんこ絞めろw

一滴残らず
精液搾り取って
帰れよw

それがお前ら
帝国おちんぼ親衛隊の
仕事なんだからなw



帝国人のガキ
孕めることに
感謝しろよ?
返事は?!

はっ...はっ...はっ...
はっ...はっ...はっ...

うっわ
こいつらクッサW
全身ザーメン
まみれW

お勤め
ご苦労さんW
お陰ですっきり
したぜW

伸びてねえで
さっさと
次の街行けやW

仕事まだまだ
残ってんぞW

これからも
お国の為に
しっかりご奉仕
するんだぞW

ズシュー

ズシュー

ビッ

ビッ

ゴポポ

ゴポ

ビッ

ズシュー

ズシュー

ズシュー

ズシュー

ビッ

ズシュー

ビッ

ズシュー

ズシュー

ズシュー



おちんぼ親衛隊として

一生な…w

-Fallen Kingdom-
国辱の雌隸

-fin-

FANZA 同人



X



2024年8月12日 発行

発行者
とっくうき1号

著者
せぶんがー

連絡先
<https://sevengar.com/>



印刷
緑陽社

この物語はフィクションです。
18歳未満の購入、閲覧、所持を禁じます。
本書の無断転載、複写、複製を禁じます。

Reproducing all or any part of the contents is prohibited without the author's permission.
©2024 tokkuuki No1. all rights reserve.